

第10回宮城県東日本大震災連絡会議 5月9日15時～

参加団体：20世紀、東松島図書館、多賀城市、envisi（南三陸）、県図書、こころの相談室、トッパン、事務局、

テーマ：Step1 「集める、探す、写真と紙」

【多賀城市】

「史都、多賀城 防災・減災アーカイブス たがじょう見聞億伝えよう 千年後の未来へ」

課題：膨大な資料と個人情報への壁

背景：減災都市多賀城宣言とその実現、市民からの震災記録現時点で約10万点

○震災の記録・記憶の体系的な整理、

○多賀城市の防災減災の歩み

○減災都市多賀城宣言とその実現

これら3つのテーマにコンテンツを整理

①震災前の防災・減災の取り組み

②震災後の取り組み

③復旧・復興の姿

④減災とし多賀城の実現に向けて（ビジョンと課題の明確化）

⑤防災・減災への指針-1人1話による未来への伝承

⑥史都、多賀城ならでわの震災の歴史(貞観地震、津波、末の松山の伝説)

⑦都市型災害の特徴（専門的・学術的な開設と分析）

資料・記録の調査と収集：全庁的に照会をかける→10万点程集まる

支援で頂いたグッズ（寄せ書きや折り鶴）なども

素材の選別：そもそも何をアーカイブするか？：各庁担当者によってアーカイブするものによって捉え方が違う。価値観の違い。

市役所の公開の壁

個人情報、膨大で公開が難しい。

効果的に集める為に、アンテナを張り、担当者から、認知向上、敏感になる。

最後に...

アーカイブは終わりの無い事業。アーカイブする意味とは、例えば、子供達が

同じ被害に合わない様に備える糧にしてもらいたい→未来への収集活用目指す。

Q&A

公開の難しさ。重要な情報は→まだ難しい

同じ写真はどうするのか？ 目作業より抜粋。マッチングをかける（デジタル）
本当は20～30万点あるが個人情報の関係で、出せない。

タグ付けは？（未公開、タグ付け、タグ付けできるもの）に別けている
担当者をどう説得するか（役所間での説得続く）

写真の整理はどの位の期間で？2ヶ月程、バイト雇用。タグ付けなど

URLは市の切り分けの仕組みなど。東北大学のサーバー上。

HPと多賀城市のサイトいずれ一本化になる。

収集方法：声かけ、取材なども（広報担当なのでスムーズ）

公開：個人情報はかなり高い壁

インタビュー後は：音声収録→テキスト化、動画（一部）市職員、学校、団体
当時の手書きのノートなどは非公開段階（保存完了）

震災当時の重要な情報の処理、保存の行方

公開データの割合は？→役所からのデータの方が市民より多い。市民への
声かけが不足気味。

今後、県図書と連携。

【20世紀アーカイブ仙台】

写真収集に特化（メディアテークわすれんと共催）

震災後はツイッターなどの画像を募集。主に震災中の生活について、人々の記憶を収集。写真の持つ意味、復旧などの情景など、タグ付け以外の編集方法で伝える。

「ケータイで撮った3.11はありますか？」-3回実施 今回26年3月の募集では2500枚収集した。なぜ撮ったのか？その時どう感じていたか？丁寧な聞き取りを行う。写真の意味付けを大事にする。

写真と共に、キャプションのみではなく、写真を巡っての物語を大事する為、編集作業に取りかかる（回想が大事）。

ラーメンを作った震災当日のよるご飯のインタビュー映像 鑑賞

経験上、女性からの話→食べ物（生活感溢れる） 男性→歴史的（年表的）の

話題が多い。

「3.11 定点観測写真アーカイブ公開サロン」今まで13回 実際撮った方々との意見交換会

今後、「人の語りを見てもらう」伝承の可能性は大

Q&A

個人情報などの取り扱い→基本公開の体制 (写真を撮った方の了解でゴー)

写真提供者、写真家が考える肖像権の問題→修正はしない。作家の意図が軽減
口述映像の編集作業は→(5~10分に集約) 解説と映像との兼ね合い。むしろ切り取ったものを見てほしい。震災体験者、聞いた、見た人の感情も織り込まないと、体験していない人には届かない感じる(アーカイブのあり方)

写真から語られる物語の広がり効果大。

現在、写真に挿入するキャプション作成中(2人インタビュー拝聴者の視点)

手記からのスタート

例) 公開サロンでの写真の説明をテキスト化し、ネットに載せる。気になる写真についてお話を聞く。タグ付けというよりもキャプションで厚めに捉える。

余談) よく伺う質問「震災翌日何を食べましたか?」公開サロンの際に聞いてきた。生活の様子が浮き彫り。

メディアテークの存在は大きい。場所の問題。

【県図書館】

なぜ震災に関する資料を収集するのか?

- 大規模自然震災、日本全体の被害、原発事故、原子力災害
- 宮城県に関わるものは郷土資料として
- 記憶風化防止、防災・減災、知のサイクルの創造

紙の資料を収集する

簡単、いつでも、だれでも、震災当時の状況からいって、紙でのコミュニケーションが常。チラシ、掲示物なども収集 ご当地ものを収集に外回り。人が集まる所、ビラを配りながら、説明をしながら、収集活動。

(例: 震災直後、停電などの状況下で手書きで情報を提供→カレンダーの裏に記入して掲示したなど、貴重な資料。)

資料をどう使う、評価するかは（史料になりうる）今後の子孫が判断

図書館としての役目と限界 市町村と連携

選挙ポスター

役目を終えたチラシに新たな役目を付加する活動

実際、紙資料は少ない。殆どデジタル

宮城県震災アーカイブ（来春運用開始開予定）

提供者へのインセンティブ→礼状の配布、提供者の名前も管理

横断幕など？→現物資料の収集は？図書館側は無理

南三陸町-アーカイブの活動の行方（観光課の活動始動、現在は手が回らない）
ポータルステーションができてようやく、集まる場が出来た。

【次回：6月20日（金）15時】3週目の金曜日になりました、ご了承ください
今後：7月18日（金）、8月 お休み

議題：Step 1 「インタビューの取り方」

専門的な内容をどう聞き取るか？音声、映像有りの選択方法

発表団体

- ・メディアテーク「わすれん」
- ・東松島市図書館

インタビューシートの持参をお願いします。その他の団体とも共有しましょう。